三鷹市立第　中学校　令和8年度 【保健体育】 授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年	・様々な学習の場を設け、生徒が自分の能力に応じて練習できるよう学習環境の工夫を行っていく。 ・評価基準を提示した。成果を生徒の自信につなげられるよう、評価をできるだけ早くフィードバックし、努力が結果に結びつくという過程を確かめさせ、意欲を高められるようにした。 ・三鷹市小・中一貫カリキュラムを活用し、主体的で対話的で深い学びができるよう、小中の系統性を意識した指導を行う。	・主体的に授業に取り組んでいる。 ・学習カードや技能プリントなどの資料を活用し、自己の課題や課題解決方法を見つけ、取り組もうとする姿勢がみられる。 ・生徒が「分かった・できた」と感じることのできるような練習環境の提供が課題である。また、その際、学習用タブレット端末等を活用しながら自分の動きを可視化したり、仲間にアドバイスしたりする時間の確保も必要である。 ・毎時間、ランニングや筋力トレーニングを取り入れ体力向上を図る必要がある。 ・単元の開始時に、小学校で学んだことを振り返る時間を設定している。	・個々の技能差に対応した練習の場（段階別・習熟度別コースなど）を確保し、成功体験を味わえるようにする。 ・学習用タブレット端末での動画撮影やフォーム分析を取り入れ、自他の動きを客観的に可視化・共有して学び合い（アドバイス）を行う時間を明確に位置付ける。 ・ 計画的な体力づくりと振り返りの充実、補強運動やランニング、筋力トレーニングを毎時間のウォーミングアップに継続的に組み込む。 ・ワークシートや評価基準を活用し、目標に対する達成度を即座にフィードバックして運動への意欲を高める。 ・小中一貫教育の系統的指導三鷹市小中一貫カリキュラムに基づき、単元導入時に小学校での既習内容を振り返る場面を設定し、円滑な接続を図る。
第2学年	・生徒が主体的に学びたくなるような、課題目標に向けてのスモールステップの資料提示や学習カード、振り返りレポートを作成することが課題である。 ・生徒自身が課題を見つけて取り組む姿勢が見えているものの、より深めていく学習活動は不十分である。生徒の活動を適正な評価につなげるためにも、生徒一人一人が主体的かつ自主的な表現ができるようにしていきたい。具体的かつ的確な指導を行うことが課題となる。	・主体的・積極的に授業に取り組んでいる生徒が多い。 ・技能向上のみならず、生徒が主体的に学びたくなるような、課題目標に向けてのスモールステップの資料提示や振り返りレポートの作成について、より細やかなアドバイスをすることが課題である。 ・レポート・動画資料を活用し、生徒自身が課題を見つけて取り組む姿勢が見えているものの、より深めていく学習活動は不十分である。 ・生徒の活動を適正な評価につなげるためにも、生徒一人一人が主体的かつ自主的な表現ができるような指導を行うことが課題となる。	・課題解決に向けた「スモールステップ」を示した視覚資料や学習カードを作成し、個に応じた手立てを明確にする。 ・振り返りレポートの記述に対し、教師から具体的かつこまやかなコメント（助言・肯定的なフィードバック）を行い、思考力・表現力をより深化させる。 ・模範動画を事前に提示・共有し、動きのイメージを持たせることで自主的な練習態度を引き出す。 ・生徒個々の運動に対する工夫や表現を適正に捉えられる観点別評価規準を明示し、形成的評価を指導に生かす。
第3学年	・「主体的に学ぶ姿」のイメージが持てるよう、達成度の高い生徒の取り組みを広げ、他の生徒に共有することができた。 ・体力テストの結果が低かった項目について、単元ごとの主運動につながる補強運動としてウォーミングアップに取り入れた。 ・三鷹市小・中一貫カリキュラムを活用し、主体的で対話的で深い学びができるよう、小中の系統性を意識した指導を行い、小学校での乗り入れ授業で授業力向上も図れた。	・主体的・積極的に授業に取り組んでいる生徒が多い。 ・毎時間ウォーミングアップの時間に行う体力づくりにより、基礎体力の向上を図る。 ・技能向上のみならず、生徒が主体的に学びたくなるような、課題目標に向けてのスモールステップの資料提示や振り返りレポートの作成についてよりこまやかなアドバイスをすることが課題である。 ・レポート・動画資料を活用し、生徒自身が課題を見つけて取り組む姿勢が見えているものの、より深めていく学習活動は不十分である。 ・生徒の活動を適正な評価につなげるためにも、生徒一人一人が主体的かつ自主的な表現ができるような指導を行うことが課題となる。	・生徒が自身の習熟度・めあてに合わせて練習や戦術を選択できる学習環境（選択制ゲーム・課題別練習など）を継続構築する。 ・達成度の高い生徒のアイデアや模範動画を活用し、クラス全体へ学びのポイントを共有することで、より高度な教え合い・学び合いへと深化させる。 ・自律的な課題解決と評価のフィードバック学習カードや「ALPHA」等のデータ・動画資料を使い、生徒自身が課題発見から評価までを主体的に行えるプロセスを工夫する。 ・生徒の表現力や対話姿勢を多面的に評価し、個々の努力や変容を認める的確なアドバイスを行う。 ・小学校との乗り入れ授業や系統性を意識した単元構想を活かし、中学校の総まとめにふさわしい対話的で深い学びを展開する。